

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.188

2015/08/04

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

保全活動多種多様...



ユキバタツバキ調査区の設定(15/07/04)



北部湿原奥沢の浚渫作業(15/07/04)



付属湿地の除草

ササユリの開花に伴う諸作業（4月末～月末）と天然更新試験地の植生調査（6/20～7/2）が一段落しました。続いて今年度のもっとも大きな調査活動になるユキバタツバキ調査の調査区設定が始まりました。森には概ね10,000株を超えるユキバタツバキが分布していると考えられますが、その特質を把握するための調査です。1株1株に認識番号を付け来期の開花期から調査を行います。現在その調査区の設定作業を進めています。急斜面等での作業は困難を極めています、正確な調査結果を得るためには欠かせない作業です。ほぼ毎日作業を行っています。是非体験してみてください。湿原への土砂流入を防ぐための浚渫作業も継続的に行っています。



台風11号でまたまた堆砂(15/07/18)

7/4の会員保全作業日に浚渫が終わった北部湿原奥の沢は、台風11号の降雨で一気に元の状態に戻ってしまいました。再度浚渫作業が待っています。同じような作業に「やまかど・森の楽舎」の付属湿地の除草があります。放置すると観察したい植物が雑草に被われてしまいます。そのための除草が欠かせませんが、なかなか人手を確保するのが難しいので弱っています。1年放置したものを元の状態に戻すのは毎年実施するより困難な作業になります。トノサマガエルの増加で付属湿地のトンボが少ない状態が続いていましたが、50匹余捕獲して他所に移動しました。その効果が表れだし、少しずつ観られるトンボの種類が戻ってきてつつあります。「生物多様性の保全」と何気なく口にしますが、現場でそれを実践することはなかなか大変です。何百年と人が関わってきた森です。

やっぱり人（本会）が関わり続けることでしか生物多様性の保全はできません。



湖北地域消防本部長浜消防署山岳救助隊

7月後半から連日猛暑が続き日本各地で熱中症の発生が続いています。これまで本会のガイド中にも何件かの救急活動を行った事例があります。いずれも大事には至ら無かったのは何よりです。しかし、この森を訪ねられる多くの方々には熟年層が多く、「救急」に対処することは常に念頭に置いておく必要があります。7/6 湖北地域消防本部長浜消防署山岳救助隊のみなさんが、現地確認に来られたのに同行しました。現地では、JPSによる位置確認・各種無線の通信確認・救急ヘリの吊り上げ地点確認・119番通報の電波確認等を行われました。「救急隊」の出動依頼が無いことを願いますが、万一のときにはお世話にならざるを得ません。県境に近いため「119」番通報が敦賀の消防に繋がらないかという懸念がありましたが、湖北に繋がることが確認できました。



一斉羽化するシオヤトンボ(10/05/05)

シュレーゲルアオガエル

捕獲したトノサマガエル(15/6/25)

2004年6月26日に造成が終わった付属湿地に全域にオオミズゴケの全面植栽が完了した。7月にはクロスジギンヤンマが初産卵・6月7日にハッチョウトンボが初飛来した。翌2005年5月21日にはクロスジギンヤンマが初羽化をした。新しく造成した湿地に次々とトンボが飛来し30種を超えるトンボの楽園が実現し四国の中村市の「トンボ公園」の状況になるのも夢では無いと思った時期もありました。2010年5月には、シオヤトンボ数十頭が数日間一斉羽化するといううめを疑うような光景も実現しました。この羽化を狙ってセキレイの仲間が頻りに湿地に飛来しました。子育てのための採餌です。羽化時の敵はこの他にシュレーゲルアオガエルやモリアオガエルが居ましたが、トノサマガエルは希にしか見られませんでした。ところが昨年からの湿地のトノサマガエルの数が急増し、今年は湿地に入ると多数のトノサマガエルが飛び跳ねる日々が続きました。その結果湿地のトンボの種数・総数ともに激減し今ではハッチョウトンボを探し出すのも大変な状態になってしまいました。おびただしい数のトノサマガエルがトンボを食い尽くすといった状態です。これを防ぐためにトノサマガエルを60匹弱捕獲し、他所へ移動しました。その後トンボの数が少しずつ増え始めています。その後もトノサマガエルの食欲旺盛さは収まっています。自然界の微妙なバランスの取り方を知らされる思いです。



回復したアカマツ(15/07/12)

【天然更新試験地のアカマツ】雪解け直後に雪害?のためか全株が枯れた状態になったアカマツが再生し見事な松林(防獣ネット外でも食害を受けないため)に生育しています。もちろんネット内は食害がないため目を見張るばかりに再生し、自然の回復力の凄さを感じます。森の大部分の未伐採部分の下層植生の貧弱さに比べ、試験地の回復植生の多さは一見に値します。50年先の森の姿を思いつつ保全活動に精を出したいものです。

【新版パンフレット刊行】2012年に刊行(10,000部)したパンフレット「ようこそ 山門水源の森へ」が残部少数となり新版(伊藤会員編集)を刊行(4,000部)しました。今回はポケットに入りやすい大きさになり訪問者には好評です。会員諸氏はお越しの際楽舎でもらってください。



ミミズを喰うトノサマガエル(15/07/12)

